学校評価総括表

奈良県立畝傍高等学校　（定時制課程）

教育目標	日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者としての必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成をめざす。		総合評価
運営方針	知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的で心身ともにたくましく活力ある生徒を育成する。		
平成30年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
○定通併修制度を設け、三修制によって3年生2名が卒業した。本年度もさらに多くの生徒の学習ニーズに応えられるよう、希望生徒は三年間で卒業できるように取り組ませたい。 ○生徒の日々の生活実態を把握し、基本的生活習慣の確立や基礎学力の向上を目指す取組を継続し、適切な支援を行いたい。	○規範意識の向上を図る。	○基本的な生活習慣の確立を促す。 ○社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。	B
	○自他を尊重する心の育成を図る。	○各生徒の悩みや課題の把握と理解に努める。 ○お互いを支え合い、信頼し会える人間関係づくりを促す。	
	○基礎・基本の定着と進路希望の実現を図る。	○確かな学力を身に付けさせるため、魅力ある授業を行う。 ○将来を見通した進路希望の実現を援助する。	
	○教職員の資質と指導力の向上を図る。	○授業公開や研修会などを積極的に行い、自ら指導方法の改善に努める。 ○常に研鑽に努め、自ら資質の向上を図る。	

	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価	結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
教務部	教育活動が円滑に行われるよう、各分掌との連絡、調整を密に行うとともに、行事計画の工夫改善を行う。	教育効果をより高めるために学校行事の調整と授業時間の確保に努める。	B	A	各校務分掌で計画立案された学校行事を調整し、適切に実施できた。今後は、1年間の見通しをもって、魅力的な学校行事ができるように、取り組むとともに、授業時間の確保に努めたい。	新学習指導要領に円滑に移行できるよう、各分掌や教科間で調整を進めるとともに、教務部として校務支援システムの利用をさらに進めていく。	概ね良好である。
	教務における教育情報資産の管理を徹底する。	個人情報の適切な管理を行うとともに、校務支援システムの円滑な移行に努める。	A		個人情報の適切な管理及び、校務支援システムの教務分掌事業に利用することはできている。		
生徒指導部	規範意識の向上を目指し、集中・安心して学べる学校づくりを目指す。	校門での立哨、通学路の巡視を定期的に行う。 授業中の携帯電話の使用禁止を徹底する。 学警連携や安全教育に関する講演会等を通じて、警察との連携を深める。	B	B	校門での立哨、校内外の巡視を継続して行うことができた。 携帯電話については、授業中に使用した生徒に対し指導を行うことが年間数回あった。 警察とは、スクールサポーターを通じて密に連携をとることができた。	生徒の規範意識は徐々に良くなってきているように感じる。まだ生徒によっては携帯電話等のルールを守れないことがあるので、粘り強い指導が必要である。	
	生徒指導に関わる情報を全職員が共有し、様々な事態に迅速に対応できるようにする。	夕礼、会議等で生徒指導の動向や生徒の情報を共有し、迅速に対応できる体制を整える。	A		生徒指導の動向等について、夕礼・会議等を通じて迅速に情報共有を行うことができた。	今後もこのような情報共有の体制は継続していく必要がある。	
進路指導部	生徒自らが自身の適性を知り、それを生かした希望の進路に進むことができるように、進路学習への前向きな態度を養う。	自分の適性について考える機会を提供し、それを生かせる場所について考えさせる。	B	B	進路講演会で生徒が自身の適性を考える良い機会にできた。	HRでの進路学習・活動の充実や進学・就職、進路研究の情報収集・選択方法の学習（ネット活用等）、インターンシップ等への参加促進が、今後の検討課題として挙げられる。	
		進学・就職に関する情報の収集と選択について理解させる。	B		情報の収集・選択の方法については不十分であった。		
		希望の進路先を調べたり見学することで、社会人として活躍できる素養を育成する。	B		進学・就職内定者については、研究・見学が概ねできた。		
人権教育部	幅広い情報の中から、多様な価値観を理解させ、自分や他人の人権をお互いに尊重できる実践力を身につける。	コミュニケーションを大切にし、互いの違いを正しく理解し、明るいなかま作りに取り組ませる。	B	B	各学年とも、年度当初よりもお互いの理解は深まってきている。 相手を認めつつも、その中で自分を主張できるようになってきた。更なる深化を考えさせる。	人権作文集を読んだり、他学年生徒との交流を通して、同世代の高校生が今何を考え、どうしたいと思っているのか等、お互いの意見を交換できるような機会を増やしていく。	
		人権講演会や映画会を通して人権について考え、自らの体験に基づいた人権作文を書かせる。	B		人権講演会（映画会）を含めた人権学習への取り組みは、みんな真面目に取り組んだ。感想文は書けたが、人権作文の取り組みは不十分だった。		
		毎学期、職員による人権教育研修を実施する。	B		毎学期に1回開いた。回数が少なく、多様なテーマを取り上げられなかった。		
保健体育部	体育的行事を行い、生徒間の交流を深める。	スポーツ行事を年2回実施する。	A	B	例年と同様に体力テスト・ボウリング大会を実施し、学年を超えて、生徒同士の交流を深めることができた。	目標の設定をより明確にし、より多くの生徒が自ら参加できるよう努める。	
	自らの身体の健康について理解させ、健康の保持増進を図る能力を育成する。	体力テストを実施し、各自の運動能力を自覚させる。	B		全生徒に実施することができなかったが、自分の運動能力に興味・関心を持たせることができた。	健康的な生活習慣の確立を目指し、自らの体調管理と運動、食事や睡眠の重要性を本人が自覚・実践できるように指導していく。	
		身体測定や健康診断の結果をもとに、自分の身体状況や健康状態を把握させ、健康的な生活を行うよう指導する。	B		自分の健康状態を把握できている生徒が多いが、健康的な生活を実践できていない生徒には指導を行った。		
第1学年	基本的な生活習慣の確立と高校生としての自覚を持たせる。	保護者との連携を重視し、欠席・遅刻・早退や問題行動の減少を図る。	B	B	欠席・遅刻・早退が多く、SNS等が関係する問題行動も多かった。	保護者との連携、SNS利用の教育を強化する必要がある。	
	集団生活での規律や協力について理解を深める。	挨拶やマナーについて具体的に指導したり、生徒の協調性が向上するクラス運営を図る。	B		生徒・保護者への取り組みを継続していたが、対人関係のトラブルが多かった。	HRや学校生活の中で、協調性が身につく活動を取り入れたい。	
	生徒が教員に相談したり、話しやすい環境づくりを目指す。	生徒とのコミュニケーションを十分に図ることで、生徒の変化を早く発見し適切な対応ができるようにする。	B		ネット・ゲーム依存や不登校傾向の生徒とのコミュニケーションが不十分であった。	ゲーム以外での仲間づくりについて、教員側からのサポートがさらに必要である。	
第2学年	自らの進路について、意識づけを行う。	HR活動や個人面談を通じて、積極的に進路の情報を提供し、進路選択の重要性を、生徒自らが積極的に考えられるようにする。	A	A	HRや個人面談、三者面談などを通じて、将来の進路について具体的な考えが出てきた。7名が三修制を希望している。	将来の進路について、具体的に考える機会をHRなどを利用して増やして行き、就職・進学関連の情報を積極的に伝える。	
	学校生活での規範意識の向上を図る。	SHRや授業での起立・礼の徹底や挨拶など授業を受ける態度の指導を行う。	B		SHRや授業での起立、礼はある程度できるようになってはきているが、できている生徒とそうでない生徒の差がある。係りの役割はほぼ全生徒がこなせるようになってきた。	就職や進学に向けて、クラスでの役割、日直の仕事を通じて与えられた仕事に責任を持つように指導する。声かけをして、挨拶ができるようにつなげる。	
第3学年	規範意識を高める。	卒業に向けて必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、責任ある言動を身に付けさせる。	B	B	挨拶が明るくしっかりとできるようになってきた。ルールやマナーについて自ら考える生徒もでてきた。	敬語の使い方や目上の人に対する接し方を十分に行えるようにする。	
	確かな学力を身につけさせる。	学び方を指導する。表現力を高めさせる。	B		授業を大切に考えられるようになってきた。学び方を工夫するようになってきた。	さらに授業に積極的に集中して参加できるよう、HR等を通じて指導する。	
	進路について、方向性を確立させる。	具体的な情報を提供し、考えさせ、選択させる。	B		アルバイトなどの就労を通じて、働くことの意義について考えることができるようになってきた。	将来、継続就労を希望する生徒に対して、自分自身の信用を高める指導を行う。	

	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
第4学年	高校生活最後の1年間の充実と、進路の実現を図る。	社会人として必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、最上級生として責任ある言動を身に付けさせる。	B	B	最低限の生活態度・礼儀やマナーを身につけることはできたが、さらなる向上を図ることはできなかった。	生徒の言動の変化に注意を払いながら生徒の理解を図ることが大切である。	概ね良好である。
		進路情報伝達や進路相談を行い、生徒の主体的な進路実現ができるよう指導する。	B		面談だけでなく、授業前後の時間を利用して生徒の希望や目標を聴き、それに向けた心構えや行動の指導を行った	卒業後は自分の判断で選択、決定をしなければならないので、主体的に行動できる生徒を育てる。	
国語科	漢字の習得に対しての関心を高め興味をもたせる。	自分の考えを文章に表現させる。	B	B	演習の機会を充分に取ることができた。ただし文章表現の指導は回数が少なかった。	生徒の実態に合わせて文章指導の機会を増やす。	
	コミュニケーションを図り意見の交流を大切にする。	理解してわかることのおもしろさを感じて取り組む態度を養う。	B		毎回時事問題か新聞記事を用いて意見交流の機会を設けることができた。	発言する生徒が偏らないよう、指導方法に注意する。	
地理歴史科	生徒にとって身近なことから、興味や関心をもたせる。	各種メディアの資料、視聴覚教材の積極的活用を図る。	B	B	視聴覚教材の活用が進められたことで、その時代の文化や人々の様子を具体的にイメージさせることができた。	引き続き視聴覚教材の活用を進め、生徒の興味や関心を引き出せるようにする。	
	時代や国々による相違点を認識させる。	美術・文学等の教材を取り入れ、文化的教養を高めることを目指す。	A		資料を積極的に活用することで、諸外国の文化や出来事について興味や関心をひきだすことができた。	多様な資料を活用することで、進んで興味や関心を持たせるようにする。	
	歴史認識を基礎に幅広い知識を身につけさせる。	考えや思いを文章化できるようになることを目指す。高卒認定試験の受験対策を併せて実施する。	B		高卒認定試験について意欲的に取り組むことができた。合格者を出すことができた。	なるべく早い段階から高卒認定試験に関心を持たせる事が必要である。説明会等に参加させる。	
公民科	生徒が授業に興味・関心を持つように、時事問題を適時取り入れ活用する。	最新のニュースや統計、情報などに注目し、授業に活用が可能な話題を積極的に取り入れる。	A	B	各授業の冒頭で、時事的な話題に触れることで生徒の時事問題に対する関心を持たせる事ができた。	授業で初めて時事問題を知ったという生徒が多いので、スマートフォン等で情報収集できるように指導する。	
	基礎的知識の習得を図るため、教材や資料を精選する。	都道府県の位置や県庁所在地など、基礎的な知識の定着を図る。プリント教材等の活用を積極的に取り入れる。	A		教科書内容と関連させて、授業プリントに白地図などを挿入して都道府県や県庁所在地を小テスト形式で出題することにより、基礎的な知識の定着につなぐことができた。	都道府県とその県庁所在地のみをピックアップした授業プリントを作成し、それらを位置的に理解できるように促す。	
	現代社会の問題や課題を、主体的に学ぶ視点を養う。	討論や意見交換などを通じて、自ら問題に対応する力を身につける。	C		話し合いに至るまでの公民科の基礎的な知識習得に重点を置いていたため、生徒どうしの話し合いをする環境を十分に作り出せなかった。	知識習得と討論話し合い等が並行して行うことのできる授業プリント等の教材作成をするとともに、日頃から生徒どうしが意見交換を行うことのできる環境づくりに努める。	
数学科	基礎的な技能の習得を図る。	かなり基礎的な内容から説明する。	A	B	生徒に苦手意識はあるが、基礎的な内容を理解しようと努力させた。	早期に学力面のつまずきを把握し、高校の基礎的な内容も少しずつ含めて、指導していく。	
		自らの手で問題を解く習慣を付けさせる。	B		空欄をうめる形式の発問（板書）が有効で、生徒が問題を自力で解こうとするきっかけになった。		
理　科	基礎・基本的な事柄の習得を図る。	既習事項の定着を重点的に行う。	B	B	授業毎に前時の振り返りを行ったが、生徒間の理解度の差があった。	生徒の理解度にあった振り返り学習を考える必要がある。	
	学習したことを日常生活につなげる力を養う。	科学ニュースを取り上げる機会を増やし、演示実験や視聴覚機材を取り入れた授業を展開する。	B		視聴覚機材を用いた授業を昨年度より増やすことができた。	今後も効果的な演示実験、視聴覚機器の使用方法を考えていく必要がある。	
保健体育科	授業を通して集団の一員であることを理解させる。	集合・整列等の集団行動を実施し、迅速な行動を身につけさせる。	B	B	集合・整列・挨拶等ある程度習慣化させることができた。	引き続き、けじめをつけることの大切さを理解させ、必要な集団行動を身につけさせていきたい。	
	運動をすることで楽しさや喜びを味わうとともに、出来た時の達成感を体験させる。	主として球技種目を実施し、生涯に渡って運動を続けていける力を身につけさせる。	B		球技を中心にルールを守り、安全に運動させること及び、楽しさを感じさせることができた。	更に、生徒が自ら積極性も身につけ、生涯スポーツの実践に繋げていけるように授業を進める。	
芸術科 （書道科）	書の基礎的な表現力を養う。	古名蹟を手本にして習わせる。	B	B	手本に向き合い、各古典や書風の違いを味わわせることができた。	運筆にもっと意識を持たせて、味わわせていく必要がある。	
	書を通して自己を表現する。	漢字仮名交じりの書を書かせる。	B	B	漢字や仮名を使っての創作活動だけでなく、「〇」などの記号を用いた表現活動もできた。また、相互の作品を鑑賞し合うことで、学び合う環境を整えられた。	創作上の工夫など、より具体的な学び合いができるよう試みる。	
		基本的な表現力を定着させる。	B				
英語科	英語に対する苦手意識をなくすため、自らが積極的に参加できる楽しい授業を工夫する。	表現活動を取り入れ、生徒が興味をもって学習できる授業形態をつくりだす。	B	B	物語の内容理解を意識しながら、生徒への質問や答え方を考慮した。この方法を強化する。	生徒が英語を理解することから、自由に運用できるようにさせることを目指す。	
	学習内容の基礎・基本を定着させる。	復習に力をおき、学習内容を確実に定着させ積み上げていくようにする。	B		中学の内容を再度学習し直す事柄も多く、理解は進んだ。確実な理解を徹底する。	基礎・基本を大切にしながら、生徒の語彙を増やす方法を工夫する。	
家庭科	生活に関する基礎的・基本的知識と技能を習得させ、人との関わりの中で、生活者としての自覚と責任のある人間を育てる。	食育を中心に家族、保育の重要性を認識させ、賢い消費者としての実践力を身につけさせる。	B	B	第1学期と第2学期に分けての調理実習を通し、食の大切さやライフスタイルを考えさせることができた。	時間配分に注意させて、グループの中での責任感を持たせての実習に取り組ませ、自己肯定感を味あわせるように努めたい。	
		特に、主体的な消費、行動、消費者の権利と責任、資源、環境など、ライフスタイルを考える力を育てる。	B		成年年齢に達した者もいる中、消費者の権利と責任、契約の重要性を考えさせた。		
情報科	情報技術を活用して、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけさせる。	B	B	基本的な情報技術を活用できるようになった。ただ、課題に最適な解決方法を探す能力を身につけさせるには、今後も継続的な指導が必要である。	情報社会に参画することはできているが、情報を読み解く力や情報モラルが不足している。今後も情報の科学的理解に基づく情報活用能力の育成に努めたい。	
		情報社会において個人の果たすべき役割や責任、情報モラルについて科学的に捉え、理解させる。	B		情報社会における個人の責任については、理解させることができた。今後も技術発展に応じた情報モラルを身につけて、行動できるようにするためには、継続的な指導が今後も必要である。		
商業科	ビジネス活動で必要な知識や技能を習得させ、社会人として必要な素養の育成を目指す。	各科目の学習内容において、基礎・基本を重視し、演習や実習などを通して、知識と技術の定着を図る。	B	B	コンピュータ実習などの演習を通して、技術の定着をはかることはできた。今後はさらに社会人としてのマナーなどの素養を深めていきたい。	視聴覚教材を利用して理解をさらに深められるように工夫する。	
		ビジネス活動を計数的側面から理解させる。	B		基本的な割合計算や簿記などの学習を通してビジネス活動を理解させることはできた。		